



2026年2月27日

各 位

会 社 名 株式会社 GENDA  
代 表 者 名 代表取締役社長 CEO 片岡 尚  
(コード番号：9166 東証グロース市場)  
問 合 せ 先 常務取締役 CFO 渡邊 太樹  
(TEL 03-6281-4781)

### よくある質問と回答 (2026年2月)

日頃より、当社へご関心をお持ちいただきありがとうございます。今月、投資家様より頂戴した主な質問とその回答について、下記の通り開示いたします。

なお、本開示は投資家様への情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的に、毎月月末を目途に開示するものです。回答内容については、時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります。直近の回答内容を最新の当社方針として回答を記載しております。

なお、過去の「よくある質問と回答」は当社ホームページをご覧ください。

<https://genda.jp/ir/faq/>

Q1. GENDA に於ける AI 技術への代替リスクは？

結論から申し上げますと、AI は当社の物理的な「エンタメ・プラットフォーム」を代替するものというよりはむしろ「エンタメ・プラットフォーム」は AI 時代に残っていくもの、さらには AI を駆使した業務効率化によって当社事業の追い風になるのではないかと考えています。

足元の AI 相場では「HALO (Heavy Asset Low Obsolescence)」というキーワードが注目されています (直訳すれば「重い資産を持ち、陳腐化しにくい」銘柄群で、AI の影響を受けにくい銘柄)。「AI が製品・サービスを複製できるか否か」が HALO の基準とされております。

その観点では、デジタルや AI がどれだけ便利になっても、人間が五感を使って直接楽しむ「物理的な体験」への欲求は、そう簡単には無くならないと考えています。

当社の扱う主要事業には以下のような物理的なエンターテインメントがあります；

- アミューズメント施設：アニメ人気を五感でリアルに感じながら、体験価値と共にアニメを物理的に提供するプラットフォーム
- カラオケ：「歌う」という、人間社会で太古から淘汰されずに続く娯楽
- フォトスタジオ：記念撮影をイベントとして楽しむ、人生の節目を記録する体験
- 外貨両替機：インバウンド需要に不可欠な「現金」を扱う、物理的なインフラ

前述のような当社の「エンタメ・プラットフォーム」は、「魅力的な箱 (物理的な販売網) を作り、中身 (コンテンツ) を旬なものに入れ替え続ける」というビジネスモデルです。

AI によって新しいエンタメコンテンツが次々と生まれても、人間がそれを楽しむ「物理的な出口」として私たちの店舗網が機能すれば、完全に代替される未来にはなりにくいと考えています。

デジタル技術の発展で世界が急激に変化するからこそ、簡単には動かせない物理的な拠点が、結果として一つの強みになっているという感覚です。

一方で、AI を使用したデジタル化による業務効率化や顧客体験向上の余地は多分にあります。そのうえで、AI 活用によるフィジカル体験のサービス強化をしております。

例えば、店舗運営の効率化や、お客様一人ひとりに合わせたサービス提供に AI を活用することで、物理的な拠点の魅力をさらに引き出していきます。

AI 活用の流れは不可逆的ですが、当社は物理拠点の価値を最大化させるための強力な追い風と捉えています。

GENDA では、単体の全社員の過半である 99 名が AI×DX を推進するテックのプロフェッショナル人材で、M&A の執行を担う管理系人材よりも多い事が特徴です。

それぞれがテックやデータの専門的なキャリアを歩んでおり、その経験を活かして業界革新的な DX 施策を実施しています。

当社の具体的な取り組みは下記の資料をご覧ください。

- **アミューズメント：「プロジェクト PAO」**  
数万行の Excel 作業となり人力では限界だった「どの店舗への景品を何箱割振るべきか」の無数のパターンをマシンパワーで総当たり計算し、廃棄/機会損失を極小化する AI。結果、発注計画と店舗割振の乖離率の標準偏差 32.6→4.9 と、極小化に成功。  
(ご参考 [「2025 年 1 月期 第 2 四半期決算説明資料」 28 ページ](#))
- **カラオケ：「BanBan AI Agent」**  
現場の課題であった電話対応と大量のマニュアルに対し、生成 AI を活用したマニュアル ChatBot を内製化。現場スタッフのマニュアル参照時間の短縮、電話問い合わせの減少、本部対応の負荷軽減を実現。内製化により、運用コストは SaaS 比約 4 割減。  
(ご参考 [「2026 年 1 月期第 1 四半期決算説明資料」 22 ページ](#))
- **外貨両替機：ルート最適化 AI での「MEO」**  
人力で行っていた、補充すべき両替機の選定・担当車両の割当・ルート策定を、残高や利用頻度等から総合的に AI が判断し決定。更に、AI が直近の払出券種や勤務体制を加味し、最適な金額を予測。  
(ご参考 [「2026 年 1 月期第 2 四半期決算説明資料」 22 ページ](#))

Q2. 昨今の AI 関連銘柄による相場での GENDA 株の位置づけは？

昨今の株式市場の動向については、投資家の皆様との対話を重ねる中で、示唆に富むご意見を頂戴しております。

当社株価の動向については、個社要因とマクロ要因がある中で、まずは個社としての実行と成果が最も重要であると認識しております。

その前提で、足元のマクロ環境の影響についても示唆に富む見解を伺っており、あくまで一つの見方ではありますが、皆様にも共有させていただきます。

1. マーケット・ニュートラル戦略による高 $\beta$ 値銘柄の売り

投資家の皆様との対話の中では、足元の市場環境において、世界的な AI 関連銘柄に対するロングポジションと組み合わせ、リスク特性や成長性の相関が高い他の成長銘柄をショートすることでエクスポージャーを調整する、いわゆるマーケット・ニュートラル戦略が一定程度見られるとのご指摘を伺っております。

特に AI 関連銘柄はボラティリティが高い傾向にあるため、ショート側には  $\beta$  値の高い銘柄がバスケットで選定されるケースもあるとのことでした。

その文脈において、相対的に  $\beta$  値の高い当社株式も、リスク調整上のペア対象として含まれることがあるとの見解を共有いただいております。

2. 「AI 代替可能性」という文脈でのエンタメセクターの売り

加えて、AI 関連セクターへの「買い（ロング）」を更に増やす際に、リスク調整の観点から、ほかのセクターへの「売り（ショート）」を行う必要があり、その際には AI 代替可能性のあるセクターが選別されるというご意見がありました。

その際、ゲームを含むエンタメ関連を筆頭に AI の代替可能性がありそうな銘柄が、リスク調整のためのペアとして対象に含まれることがある、という見方をする投資家の方もいらっしゃいます。

また、「エンタメセクターは AI に代替されるのではないか」という懸念が、セクター選別に影響を与えているという指摘もあり、エンタメ関連株が一律で売り（ショート）の対象となる場面があるとのことでした。

Q3. マレーシアのカラオケ事業を営む Ottotree Entertainment 社の M&A について。

当社は、直近公表しております戦略方針のとおり、M&A 案件をより厳選していく方針を明確にしております。

本件は、その方針のもとで慎重に選別を行った上で決定した案件であり、厳選の上、決定に至っております。

同社は、高品質なカラオケ体験を提供するブランドとして、既にマレーシア最大手の一角の地位を築いております。

更に、当社国内のカラオケ事業と比較しても利益率は高く、過去から安定したキャッシュフローを創出しており、M&A 後に抜本的な改革を要する状況にはありません。

また、取得価額についても、フリーキャッシュフローでの回収期間が当社の投資基準に十分見合う水準であると判断しております。

同社のグループ参画は、日本式カラオケカルチャーを海外に展開する上での重要な第一歩となります。

「大喇叭 (Loud Speaker)」が有するマレーシア国内でのブランド力と顧客基盤を活かし、当社の運営ノウハウと組み合わせることで、新たなエンターテインメント価値の創出を目指してまいります。

-----

なお、当社は現在、北米事業を最優先として、全社を挙げて取り組んでおりますが、その中で本件とのリソース配分を懸念される向きもあるかと存じます。

その観点で申し添えさせていただきますと、本件は取得後に大型のリソースを要する案件ではなく、既に安定した収益基盤を有する企業の、魅力的な価額でのグループ参画となります。

また、PMI についても、北米やアミューズメントチームとは別に当社カラオケ事業部門が主体となって推進する体制としており、経営資源が競合することはございません。

したがって、北米への集中と、本件の着実な推進は両立可能であると考えており、発表に至ったものとなります。

Q4. 「JPX スタートアップ急成長 100 指数」に選定されたことについて。

「JPX スタートアップ急成長 100 指数 (JPX Startup 100)」は、株式会社 J P X 総研が算出・配信を行う、日本を代表する高成長スタートアップ 100 社で構成される株価指数です。

東証グロース市場に上場する銘柄及び東証グロース市場からの市場変更後一定期間の銘柄を対象に、(1)売上高成長率と(2)時価総額成長率というスタートアップ企業の成長性を測定する二つの指標を用いて銘柄を選定されています。

本指数は、単に規模だけでなく、「成長性」に焦点を当てている点が特徴です。指数に選定されたことで、中小型株への投資を検討する機関投資家からの認知度が高まることが期待されます。

また、今後金融商品 (ETF や投資信託) に活用されることで、パッシブ運用による機械的な買い需要が発生します。これにより、株価の安定性や市場流動性の向上が期待でき、将来的な資金調達をより有利に進めるための基盤となります。

Q5. 2025 年 10 月以降の「よくある質問と回答」で回答していた、MSCI の進捗は。

MSCI が提供する当社情報において、ギャンブル売上比率は 0.17% という実態に近い記載へ修正済みです。

従来、MSCI 上では当社のアミューズメントポーカー事業の売上比率が誤って記載されており、結果として、投資規約上の制約により、本来であれば当社株式の購入を検討されていた一部の機関投資家様が買付けを行うことが困難となる事態が生じておりました。

現在は一連の誤記が解消されており、正確なギャンブル売上比率である 0.17% であるに基づき、機関投資家様とも円滑なコミュニケーションを図っております。

実際に、制約により買付けが出来ていなかった機関投資家様より本件に関するお問い合わせをいただきましたが、正確な売上構成をもとに詳細な説明をした結果、正しくご理解をいただいております。

今後も市場に対して適時かつ正確な情報発信に努めてまいります。

以 上